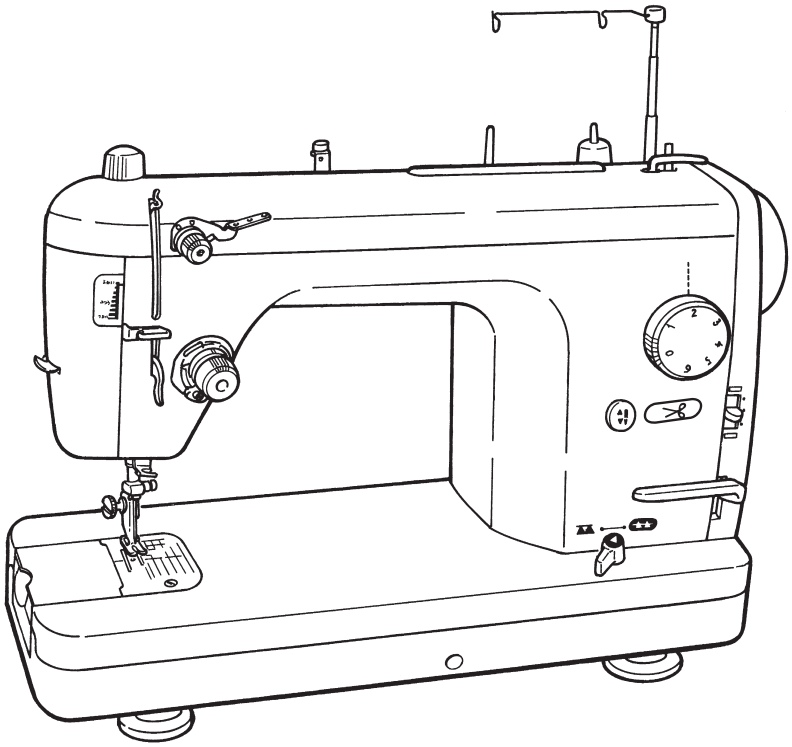
JUKI

職業用本縫いミシン

SL-300EX

取扱説明書



⚠ 注意	安全にご使用していただくため、 ご使用前に必ずこの取扱説明書を お読みください。また、いつでも ご覧になれますように保管してください。

お買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

このミシンは薄物から厚物まで美しい縫い目で縫い上げる直線本縫いミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しく、安全にご使用していただくために、
まずこの「取扱説明書」をよくご覧ください。そして、末永くご愛用ください。

安全にご使用していただくために

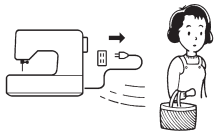
このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。
このミシンは日本国内向けです。　FOR USE IN JAPAN ONLY

この表示は
禁止マークです。

⚠警告　このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。

1．一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。

2．下記のようなときは、電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
●ミシンのそばを離れるとき。
●ミシンをご使用になったあと。
●ミシンのご使用中に停電したとき。



⚠注意　このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1．コントローラーの上に物をのせないでください。

2．お客様ご自身での分解、改造はしないでください。

3．ミシンを操作するときはかま部などカバー類を閉じてください。

4．ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。

5．針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。

6．針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押したりしないでください。

7．お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。

8．下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。
・針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
・下糸、上糸をセットするとき。
・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。

9．落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。

10．ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用を停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
・正常に作動しないとき。
・落下などにより破損したとき。
・水に濡れたとき。
・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
・異常な臭い、音がするとき。

11．ミシン油について
・**目や身体に油が付着したときは、炎症、かぶれを防ぐため、直ちに洗浄してください。**
・**誤って飲み込んだ場合は、下痢、嘔吐を防ぐため、直ちに医師の診断を受けてください。**
・子供の手の届かないところに置いてください。
・油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに従い適正に廃棄してください。

もくじ

安全にご使用していただくために ..... 表紙裏

準備
- 仕様表 1
- 付属品 1
- 各部のなまえ 2
- 各部のなまえとはたらき 3,4,5
- 下糸を巻くには 6,7
  - 糸案内棒と糸ごまのセット
  - 下糸巻きの糸のかけかた
  - 片巻きボビンを調整するには
- 上糸のかけ方 8,9
  - 針糸通し
  - 下糸の引きあげ方

縫いかた・調節
- ためし縫い 10,11
  - 返し縫い、縫い方向を変えるには
  - 布地の裏で糸を結ぶとき
- 糸調子のとりかた 12
- 針のとりかえかた 13
- 布地、糸、針の組み合せ 14
- 三つ巻縫い 14
- ファスナーつけ 15

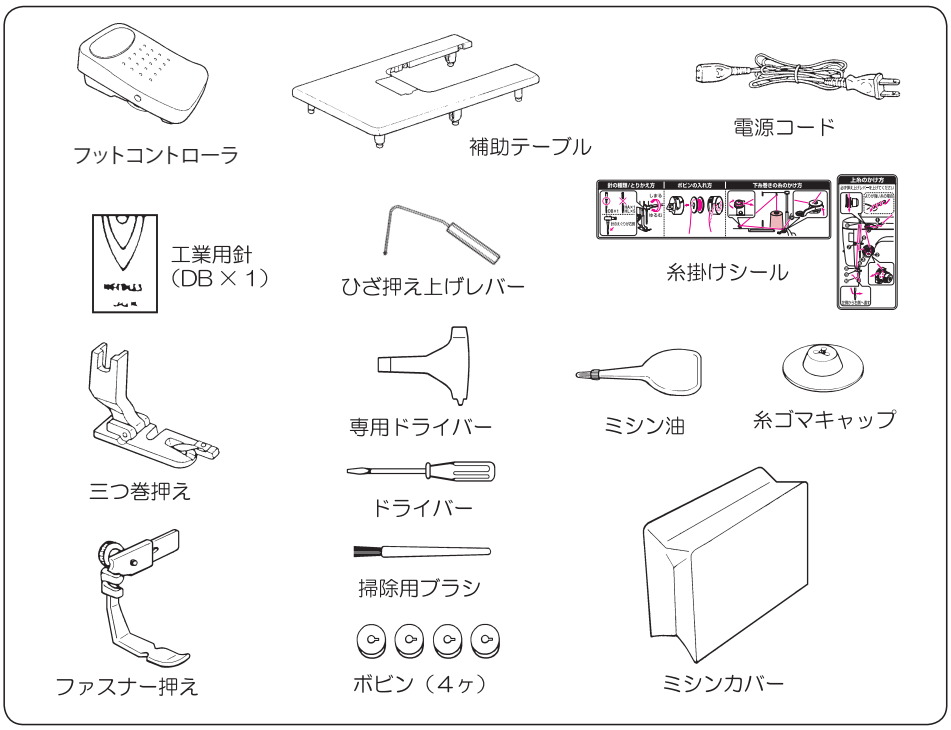
お手入れ・交換
- お手入れと注油 16
- 別売品のご紹介 17-19
- 故障かな･･･というときは 20
- アフターサービスと保証 ..... 裏表紙

■仕様表

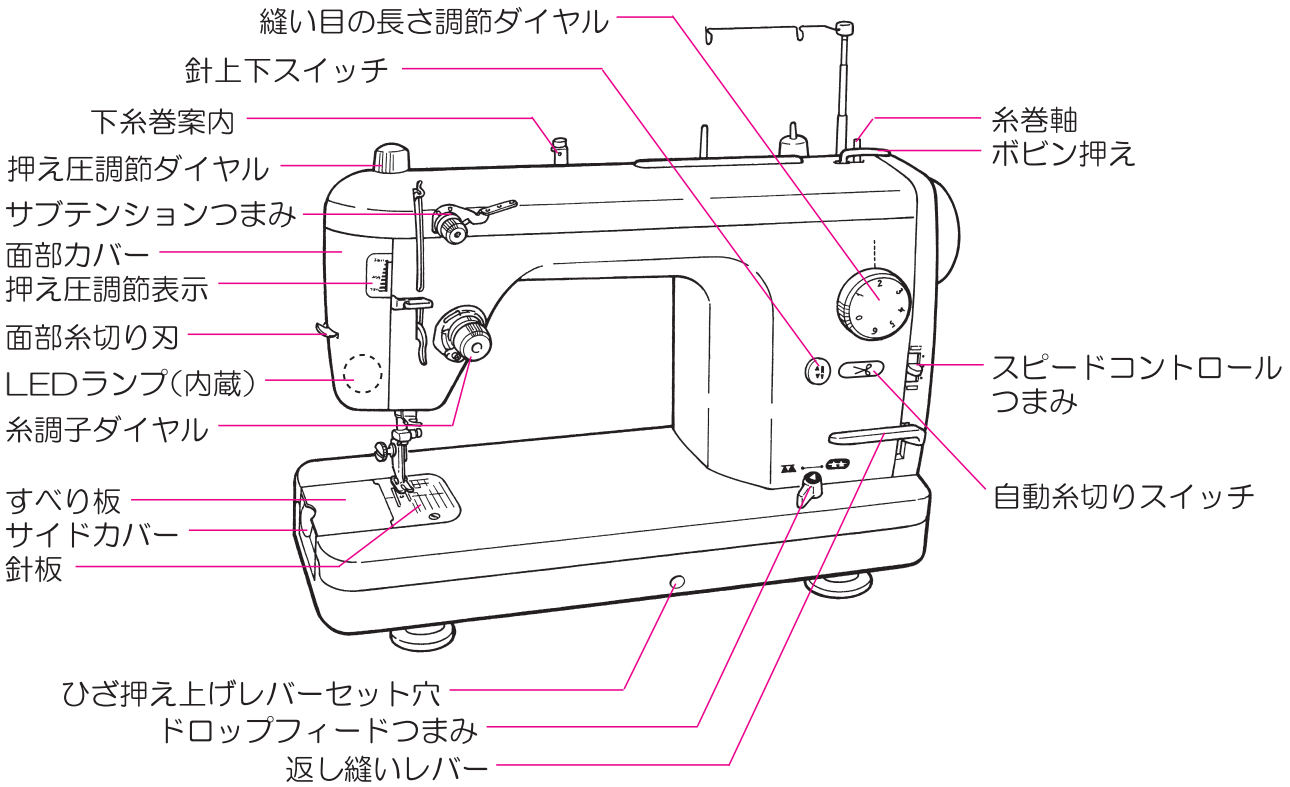
項　目	仕　　様
縫い速度	55 ～ 1,500 針 / 分
縫い目の長さ	0～6 ミリ
針棒ストローク	32 ミリ
押え上昇量	7 ミリ、ひざ押え上げ 12 ミリ、 押え上げ時最大 12 ミリ
使用針	DB × 1

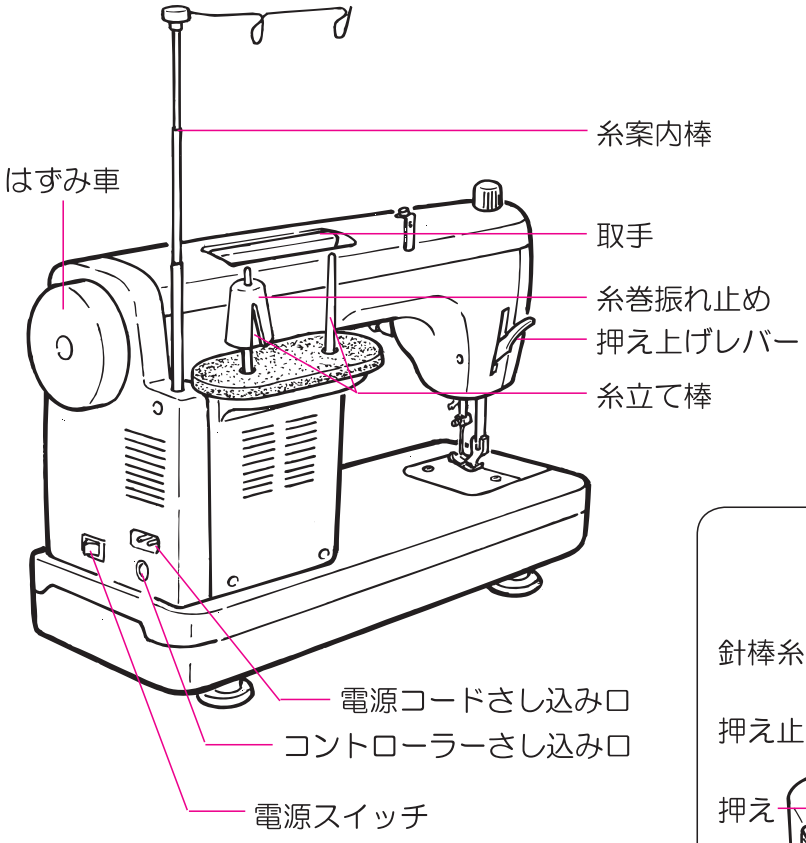
項　目	仕　　様
使用油	ニューデフレックスオイルＮｏ.1
ミシン本体寸法	幅 45.2 ×高さ 35.0 ×奥行 21.9（cm）
ベット寸法	幅 43 ×奥行 17.8 （補助テーブル幅 59 ×奥行 33.5）（cm）
重量	11.3kg
定格電圧 / 消費電力	100V/92W　50/60Hz

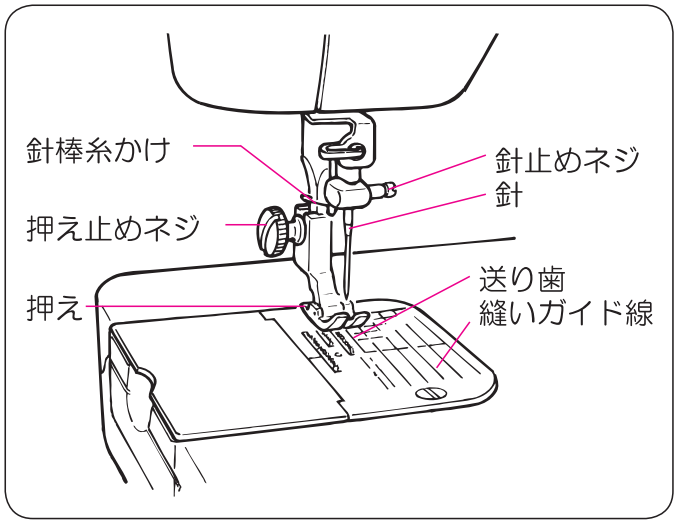
■付属品



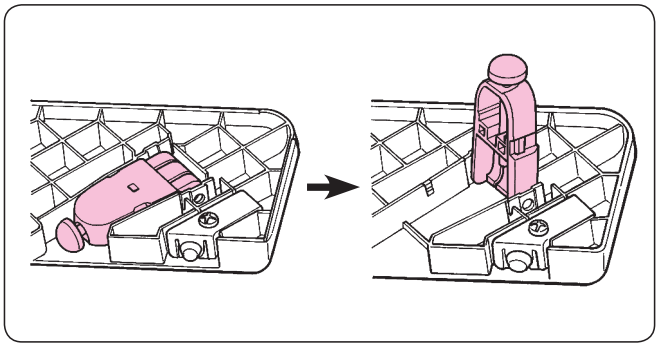
■各部のなまえ


縫い目の長さ調節ダイヤル
針上下スイッチ
下糸巻案内
押え圧調節ダイヤル
サブテンションつまみ
面部カバー
押え圧調節表示
面部糸切り刃
LEDランプ(内蔵)
糸調子ダイヤル
すべり板
サイドカバー
針板
糸巻軸
ボビン押え
スピードコントロール
つまみ
自動糸切りスイッチ
ひざ押え上げレバーセット穴
ドロップフィードつまみ
返し縫いレバー

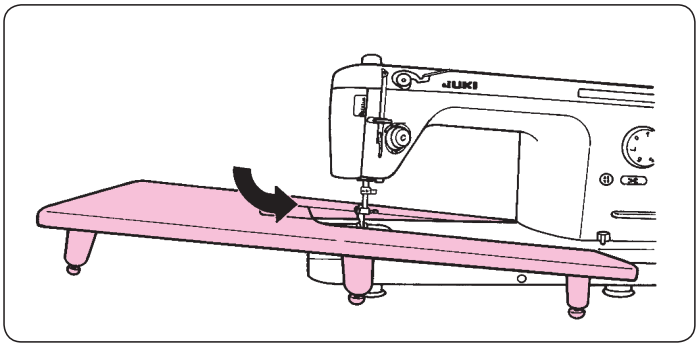

はずみ車
糸案内棒
取手
糸巻振れ止め
押え上げレバー
糸立て棒
電源コードさし込み口
コントローラーさし込み口
電源スイッチ


針棒糸かけ
針止めネジ
針
押え止めネジ
送り歯
押え
縫いガイド線

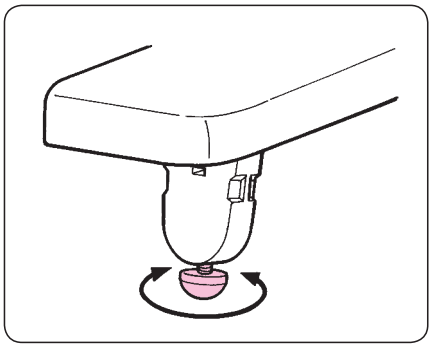
●補助テーブルの取り付け方



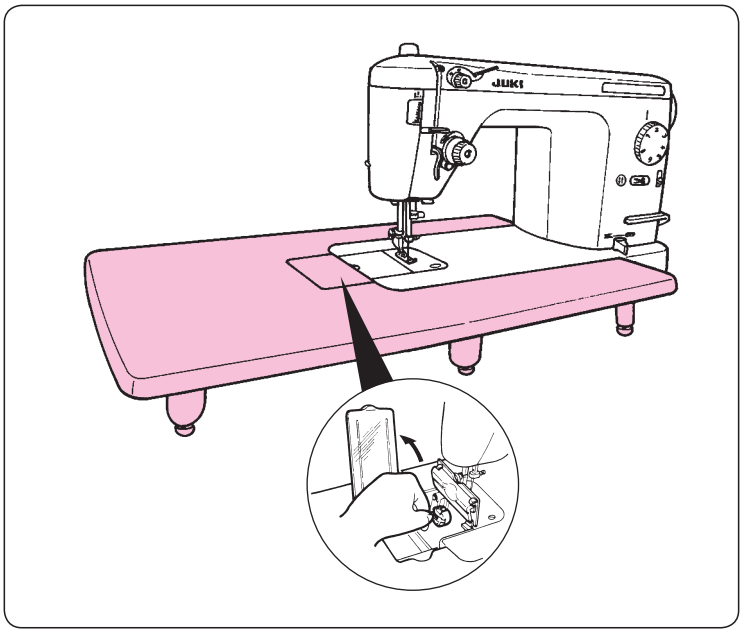
1.ワイドテーブルの足をカチッというまで立ち上げます。



2.ワイドテーブルをミシンに取り付けます。

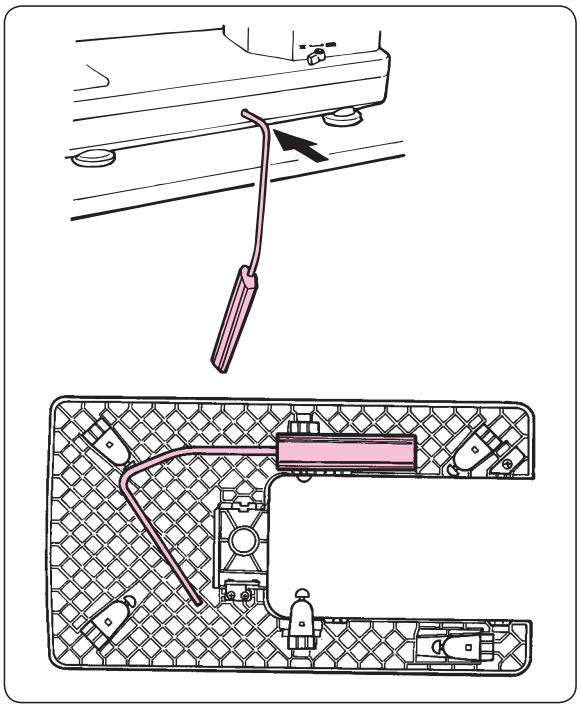


3.足の高さを調整し、ミシン本体とテーブル面は平らになるようセットします。



4.下糸の交換をする時は、補助テーブルの蓋を開けます。

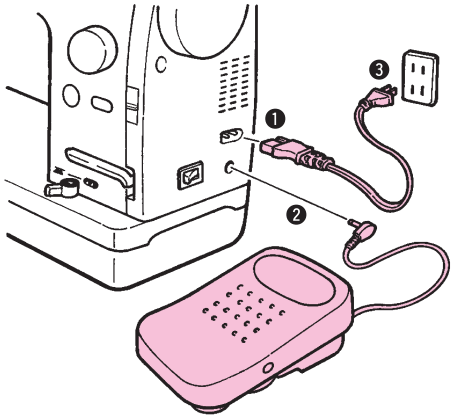
●ひざ押え上げレバーのセット



布地から手を離さずに押さえの上下が出来ます。
(押え上げ量：最大12mm)

補助テーブル裏側に格納できます。

コントローラーのセット

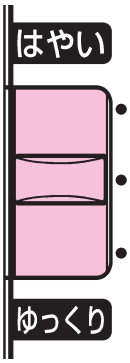


❶ 電源コードのプラグを差し込みます。
❷ コントローラーのプラグを差し込みます。
❸ 室内コンセントに電源プラグを差し込みます。

⚠注意 ミシンをお使いにならないときは下記のことを行ってください。

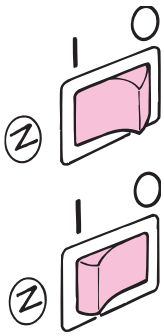
1. 電源スイッチを必ず切ってください。
2. 電源プラグは必ず室内コンセントから、はずしてください。
3. コントローラーの上に物を乗せないでください。

スピードコントロールつまみ



縫い速度の最高値を調節できます。
（調節範囲は毎分 200 針～1500 針です。）

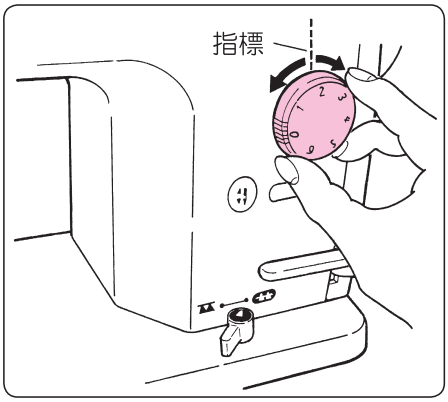
電源スイッチ



手前側を押すと電源が入ります。

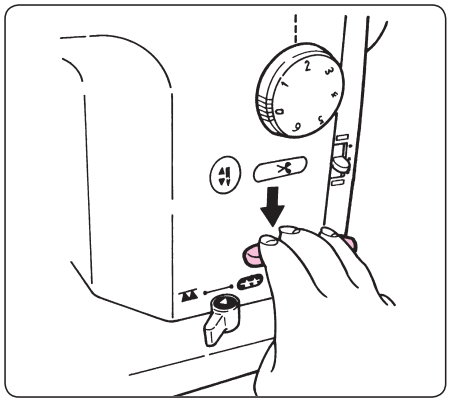
向こう側を押すと電源が切れます。

縫い目の長さ調節ダイヤル



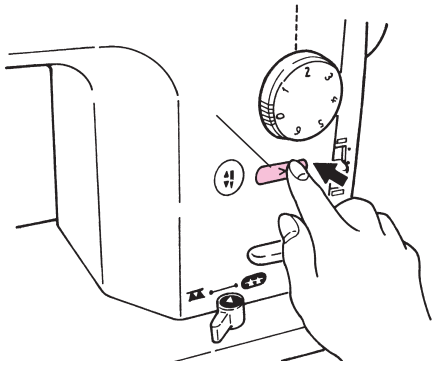
通常の合せ縫いは2～2.5です。
（調節範囲 0～6 ミリ）

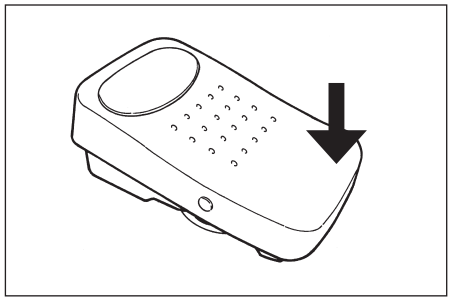
返し縫いレバー



縫い始め、縫い終りに返し縫いをすると、縫い目がほつれません。

自動糸切りスイッチ／糸切りフットスイッチ

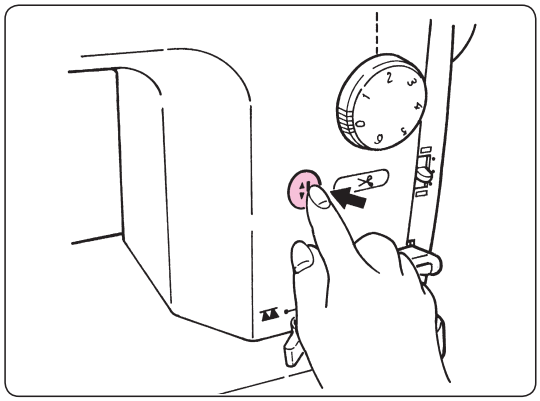




糸を切るには、どちらかをお使いください。

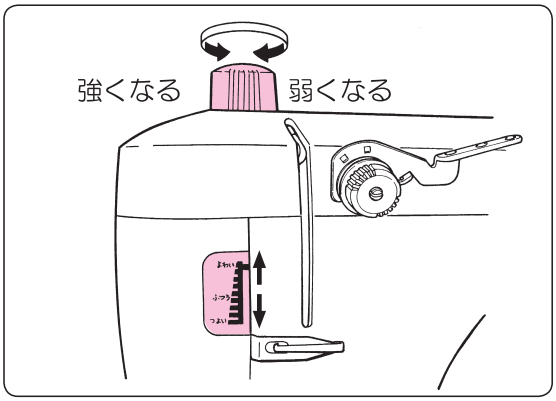
縫い終わってから上、下糸を同時に切ります。次に縫うとき下糸が針板上に見えなくても、続けて縫うことができます。

針上下スイッチ



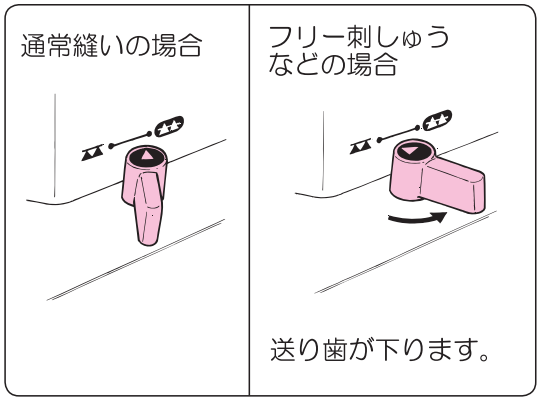
スイッチを押すごとに針が上下します。
押し続けるとゆっくり動きます。
布地から針を上げるときや、布端を縫うときに使います。

押え圧調節ダイヤルと表示



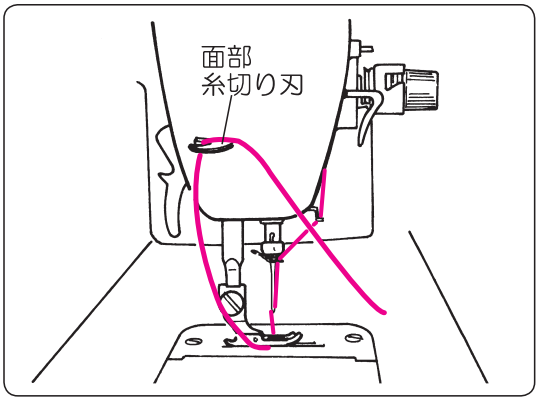
押え圧調節ダイヤルを回すと指針が上下して、押え圧が調節されます。
＊厚地を縫う場合は強めに、薄地や縫いズレしやすい生地は弱くします。

ドロップフィードつまみ



通常の縫いは送り歯を上げ（ ▲▼▲ ）、
フリー刺しゅうなどでは送り歯を
下げる（ ▲▲ ）ことができます。
送り歯を上げる場合、つまみを動かした後、
針が一針動くと送り歯は上がります。

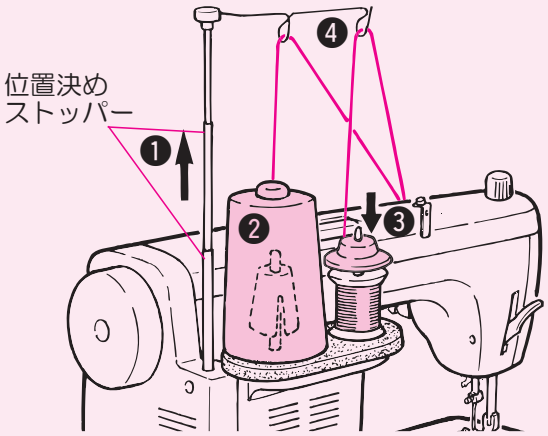
面部糸切り刃



糸を切るときに使います。

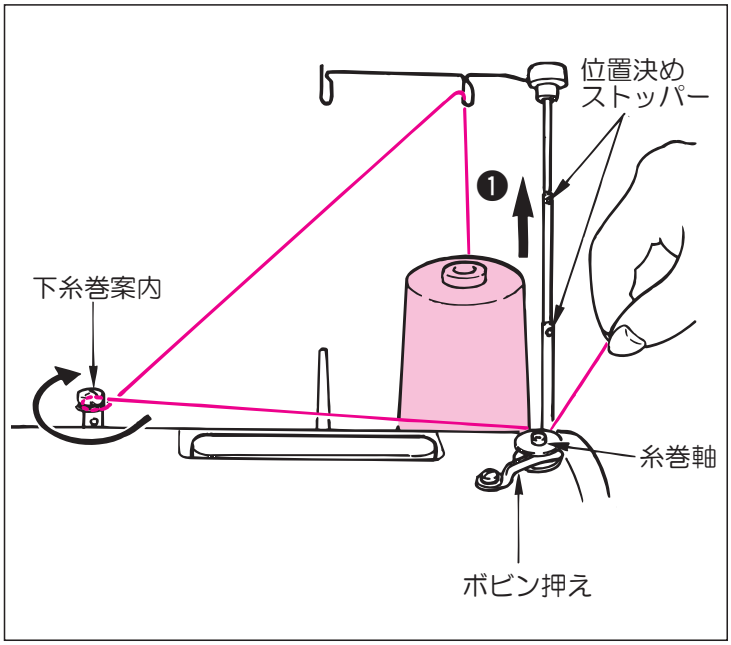
⚠注意 すべり板を開けるときは電源スイッチを切ってください。

■糸案内棒と糸ごまのセット

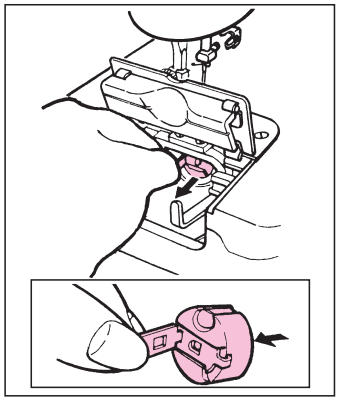


❶ 糸案内棒を上に伸ばします。「カチッ」と音がして位置決めストッパーにかみ合うまで回します。
❷ 太巻き糸を使用する場合は、糸巻振れ止めの上からセットします。
❸ 家庭用糸ごまは糸立棒にセットしてから糸ごまキャップを差し込みます。
❹ 糸ごまから出した糸を真上の糸案内（棒）にかけます。

■下糸巻きの糸のかけかた

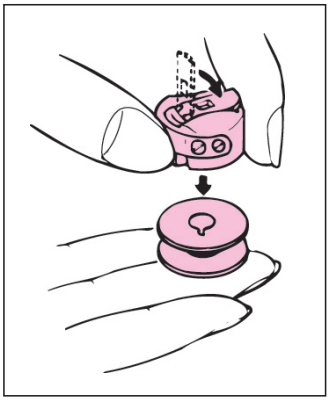


1 ボビンケースをとり出します



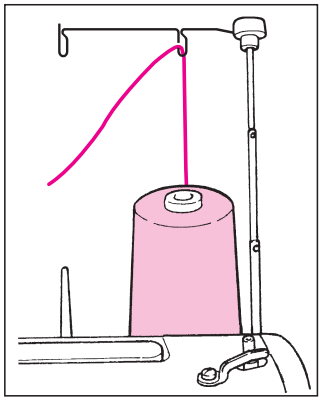
針を上げ、すべり板を開いて、ボビンケースをとり出します。

2 ボビンをとり出します

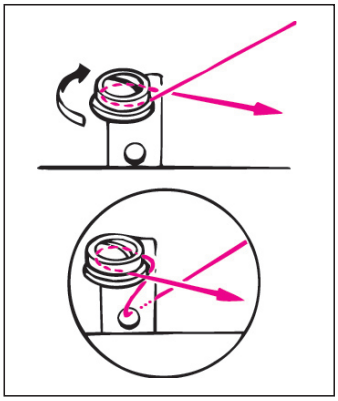


つまみを閉じて、ボビンをとり出します。

3 上糸案内棒に糸をかけます

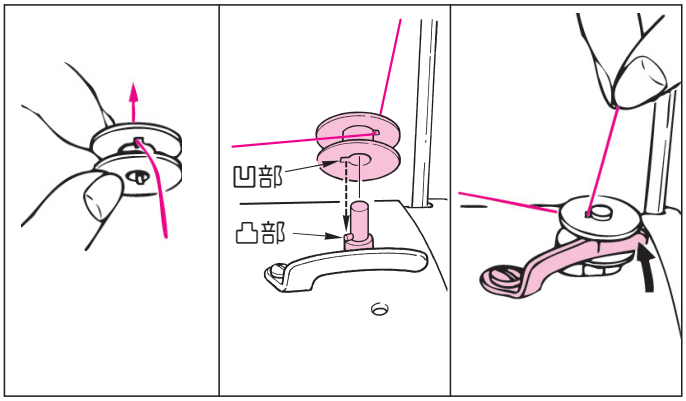


4 下糸巻案内にかけます



はずれやすい糸は下穴に通してからかけます。

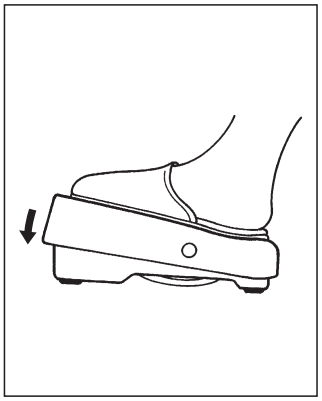
5 ボビンをセットします



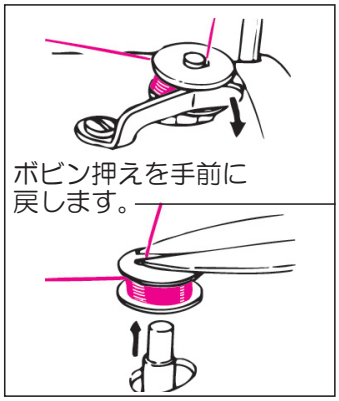
ボビンの穴へ糸を通してから
糸巻軸の凸部とボビンの
凹部を合わせてセットします。

ボビン押えを
押します。

6 スタート させます

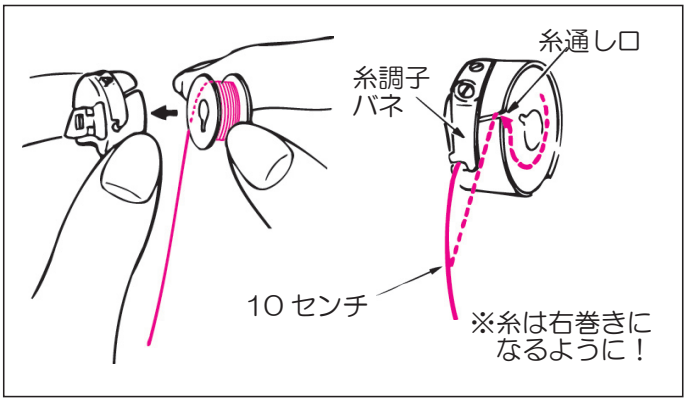


7 巻き終ったら



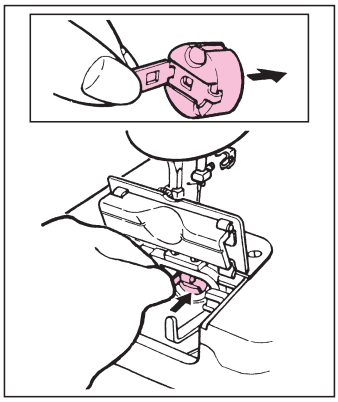
余分な糸を切りボビンを
とり出します。

8 ボビンケースに入れます



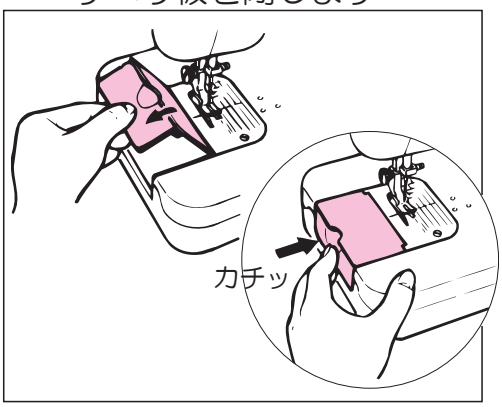
つまみを閉じて、ボビンを右巻きになるよう
にしてボビンケースに入れます。
糸通し口に糸をすべらせて、糸調子バネの
下から 10 センチくらい出します。

9 ミシンに セットします



ボビンケースをカマに
しっかり奥まで差し込
み、つまみを閉じます。

10 すべり板を閉じます



サイドカバーを開きながら、
すべり板を閉じたあと、
サイドカバーを右へ押します。

■片巻きボビンを調整するには

正しい
巻き上がり

ボビンに糸が
平均に巻かれて
いないと、
下糸の糸調子が
悪くなる原因に
なります。

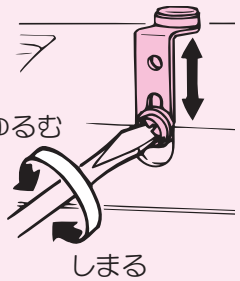
下側が
多いときは

上側が
多いときは

ネジをゆるめて下糸巻
案内を上下させて調整
します。

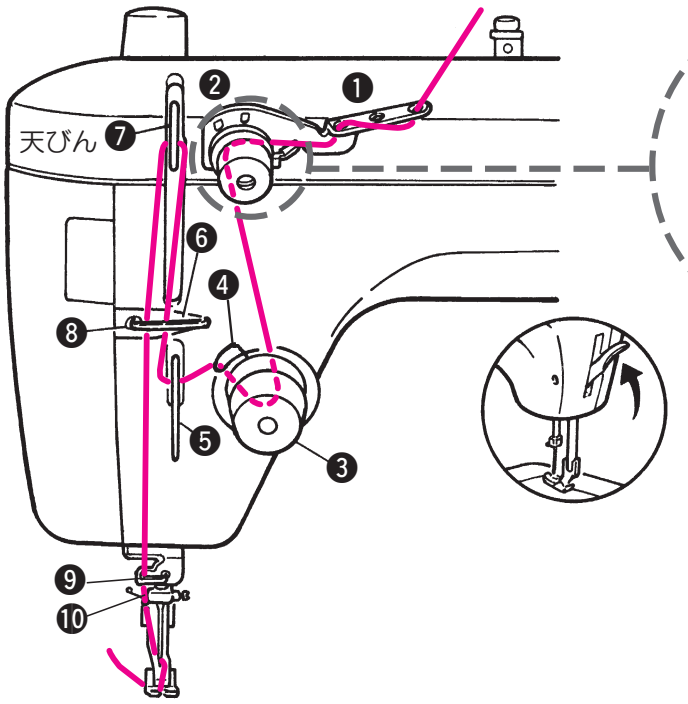
上げる

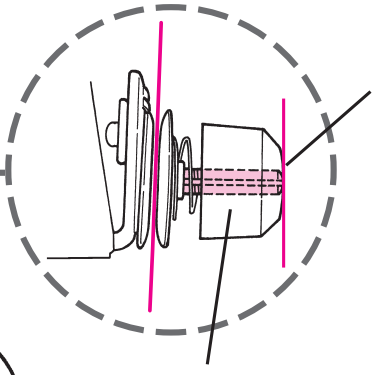
下げる



⚠注意 糸かけや糸を通すときは電源スイッチを切ってください。

■上糸をかける順序



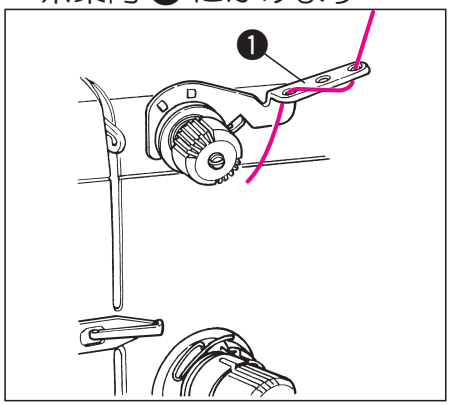


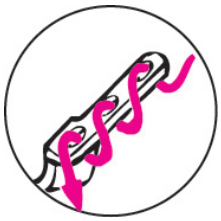
中心のねじとつまみの端面が一致しているときが標準状態です。

サブテンションつまみ
- ２枚の糸調子皿の間に糸をかけます。
- 中心のねじとつまみの端面が一致しているときが標準状態です。

＊糸調子ダイヤル❸に糸をかけるときは、押え上げレバーを上げて糸調子皿を開いてからかけます。
＊天びん❼は一番上にして糸をかけます。

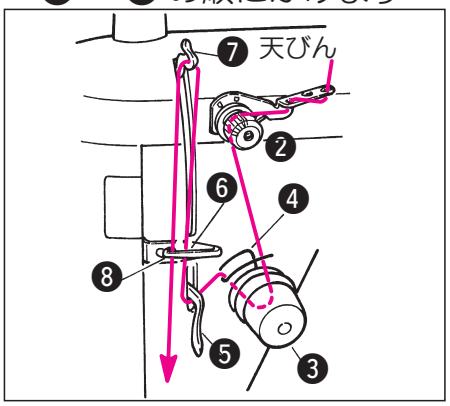
1 糸案内❶にかけます

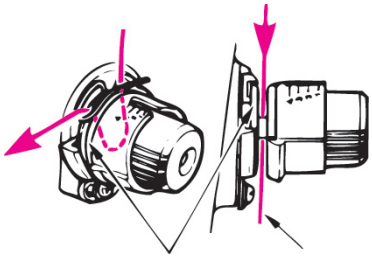




テトロン糸などよりの強い糸は上図のように糸案内へかけます。

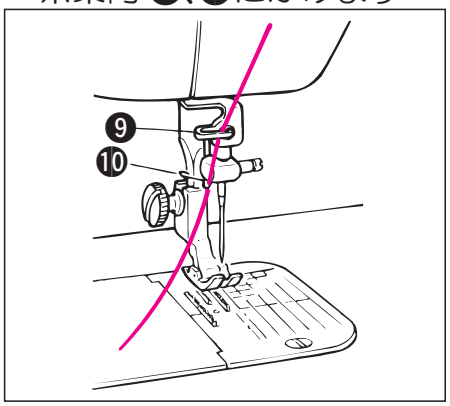
2 ❷～❽の順にかけます





２枚の糸調子皿のすき間に糸をかけます。

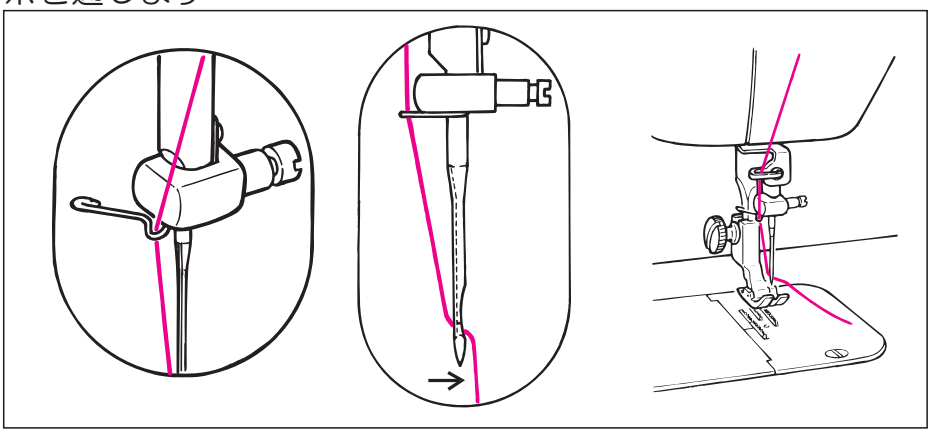
3 糸案内❾、❿にかけます



糸は 10 センチくらい出しておきます。

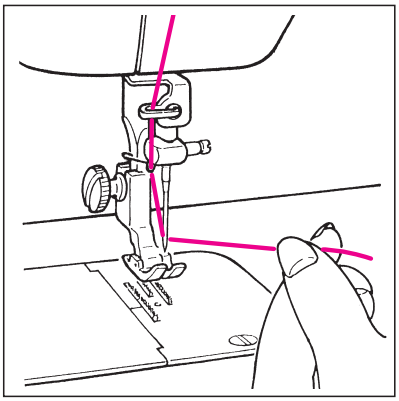
針糸通し

糸を通します

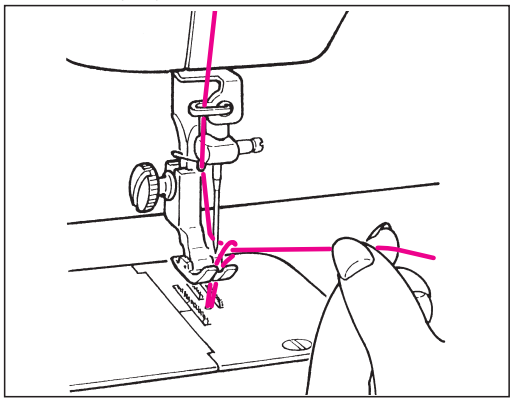


針穴に左側から右側へ通し、
10 センチくらい引き出します。

1 上糸を軽くもちます

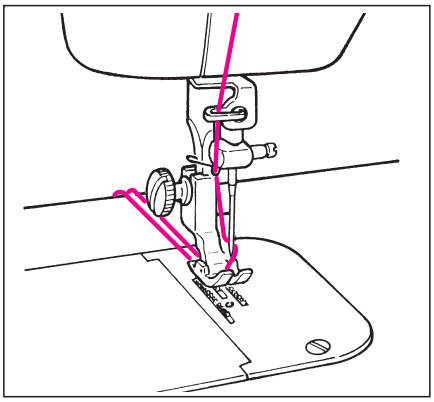


2 はずみ車を手前に回します



針が上下して下糸を出します。
※はずみ車を回す替わりに針上下スイッチを２回押し、針を上下させて下糸を出すこともできます。

3 上･下糸を 10 センチ出します



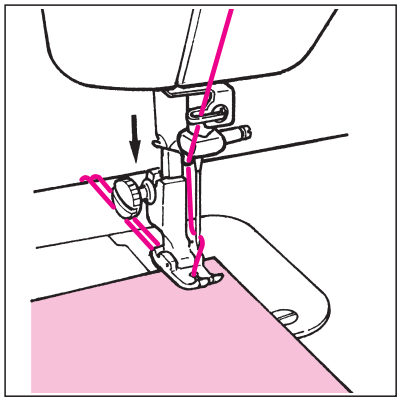
上･下糸を押えの下にして
後ろへそろえて出します。

注意 ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。

■ためし縫い

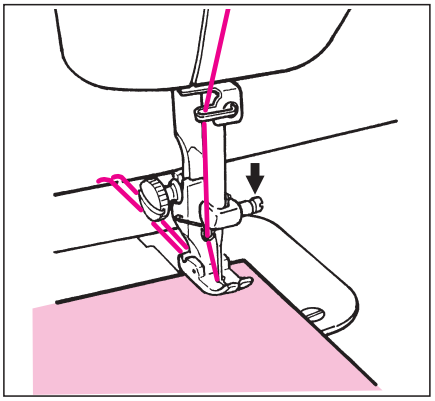
縫う前に天びんが一番上になっているか確認してください。
天びんが下から上にあがる状態で縫い始めますと
上糸が針穴から抜けることがあります。

1 布地を入れ、押えをさげます



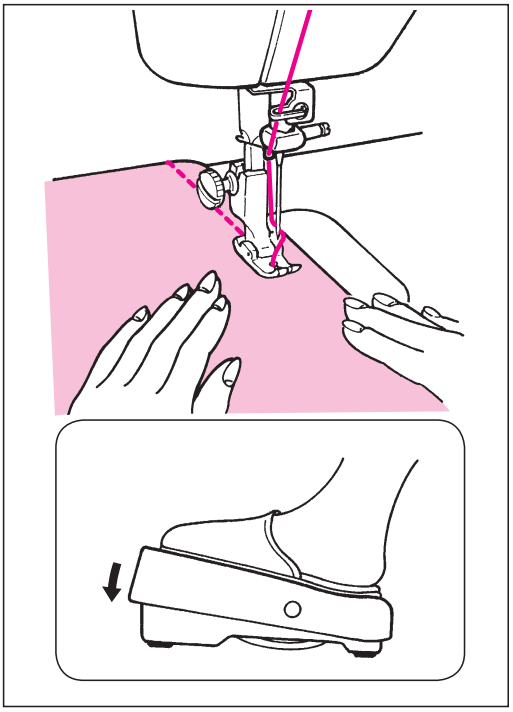
上・下糸を向こう側にして布地を入れ、押えをさげます。

2 針をさげます



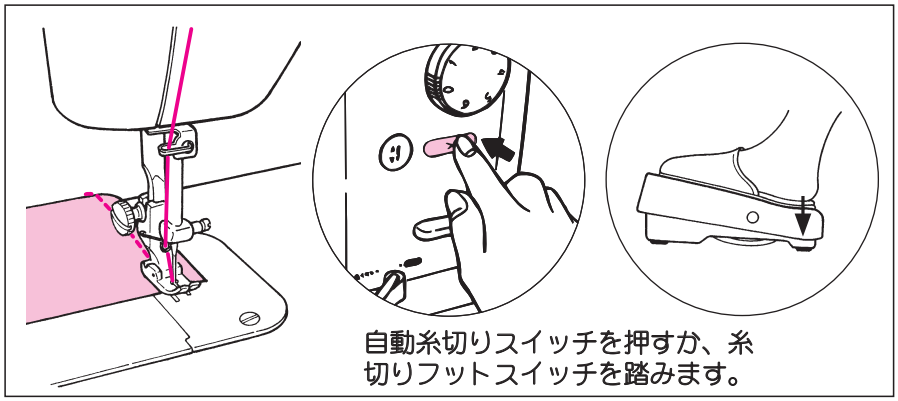
はずみ車を手前に回すか、針上下スイッチを押して針を布地に落とします。

3 スタートさせます

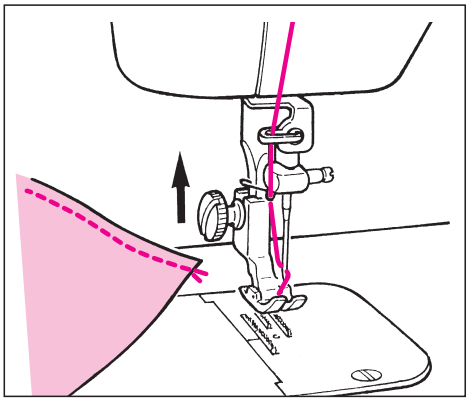


縫っている間は布地を無理に引っぱらないようにします。

4 縫い終ったらストップさせ、糸切りをします

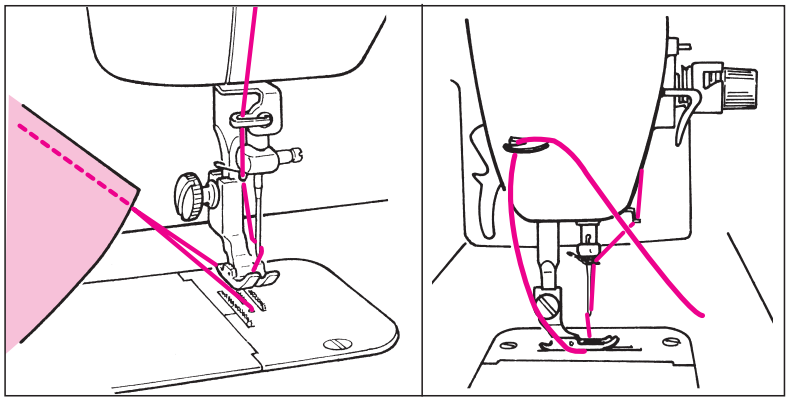


5 押えをあげて布地を取り出します



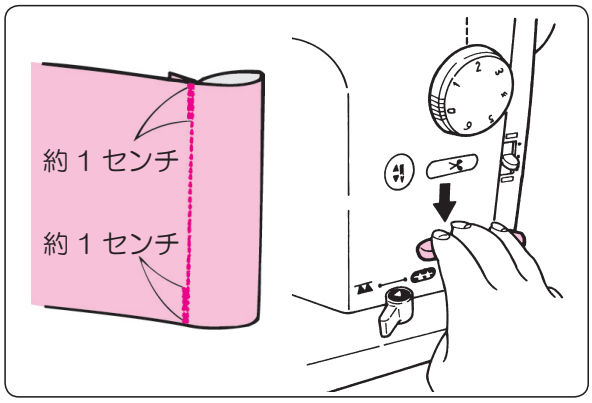
自動糸切りをすると針は上で止まります。(20 番以上の太い糸や特殊な糸はハサミで切ってください。)
※自動糸切りしたあと、下糸が針板上に見えなくても続けて縫えます。

●面部糸切り刃で糸を切るとき



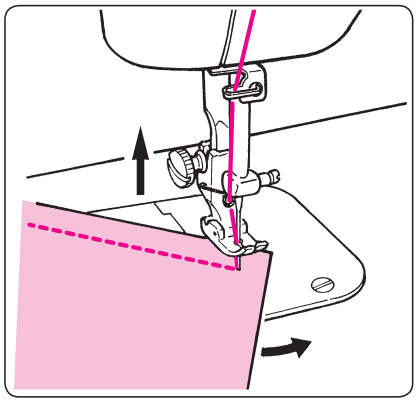
縫い終ったら針と押えを上げ、布地を後ろ側へ引き出し、
面部糸切り刃で切ります。

●返し縫い



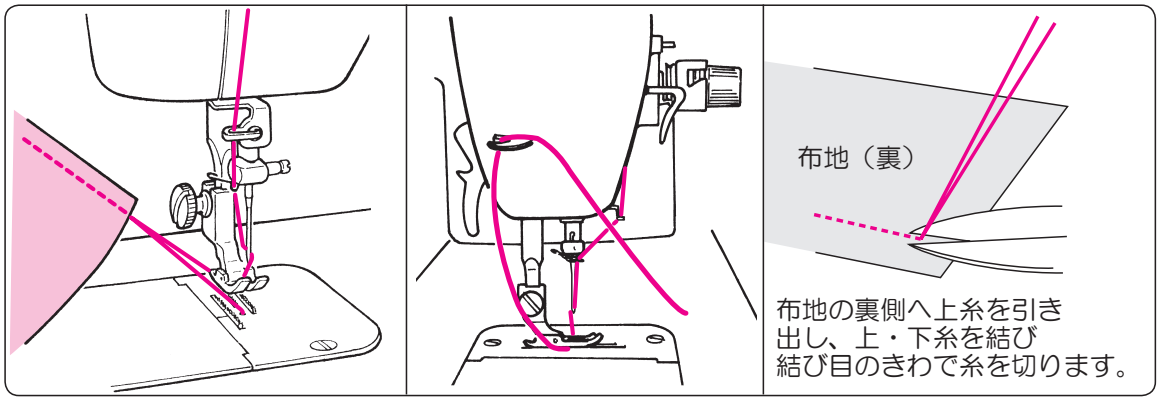
返し縫いレバーを押して、縫い始めと
縫い終りに返し縫いをすると、縫い目が
ほつれません。

●縫い方向を変えるには



針は下停止ですので、押えをあげて
針を中心に布地を回します。

●布地の裏で糸を結ぶとき



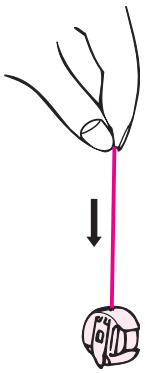
縫い終ったら針と押えを上げ、布地を後ろ側へ引き出し、
上・下糸を約 10 センチ残して、面部糸切り刃で切ります。

⚠注意 ボビンケースの取り出しのときは電源スイッチを切ってください。

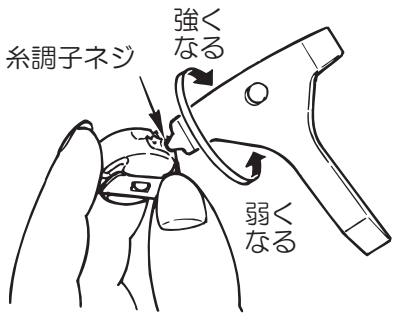
■糸調子のとりかた

ボビンケースの糸調子は右図のように、ボビンケースにボビン（糸はポリエステルスパン＃60）を入れて、軽く振って徐々に落ちる程度が目安です。

※この下糸の張力に合わせて上糸の糸調子を調節してください。



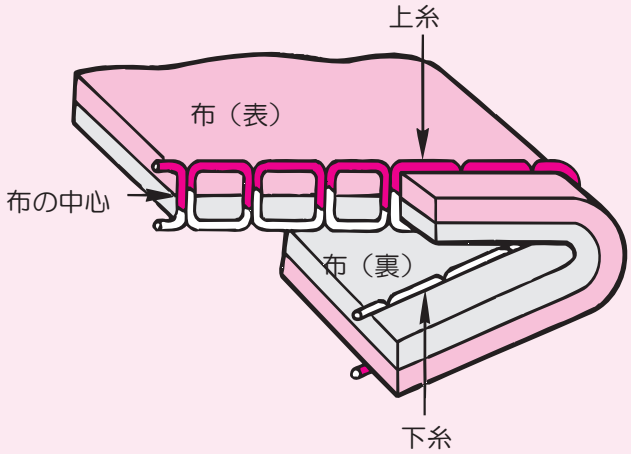
●ボビンケースの調整



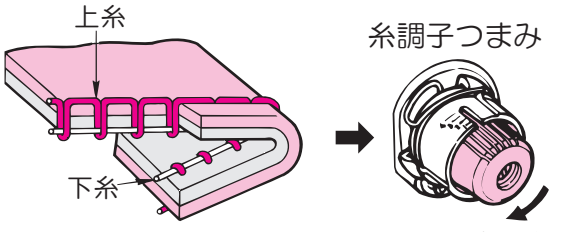
※ボビンケースは JUKI 専用部品です。
お買い求めは販売店にご相談ください。

●正しい糸調子

通常の糸調子は上糸と下糸のからんでいるところが布の中心です。

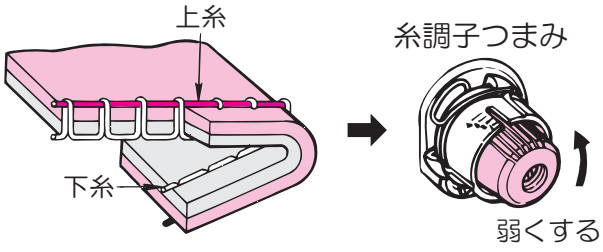


●上糸が弱い場合の調節



（目盛の数値を大きい方へ）

●上糸が強い場合の調節

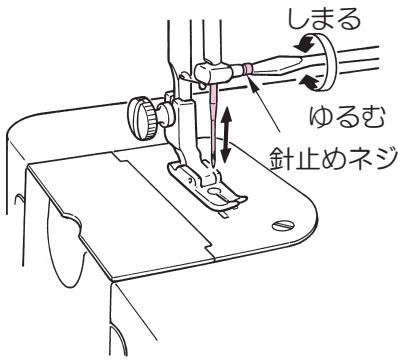


（目盛の数値を小さい方へ）

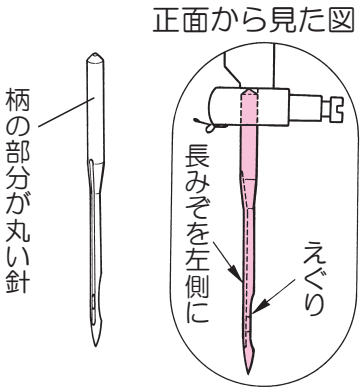
⚠注意 針の交換のときは電源スイッチを切ってください。

■針のとりかえかた

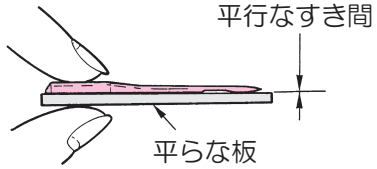
使用針：DB × 1（工業用）



1. 押えをさげて、針棒を一番上にあげます。
2. 針止めネジをゆるめ、針をはずします。
3. 新しい針の長みぞを左側にして上に止まるまで差し込み、針止めネジをしめます。



●正しい針の調べかた



針の不良は針折れ、目とび、糸切れ、布地をいためる原因になりますので点検してください。

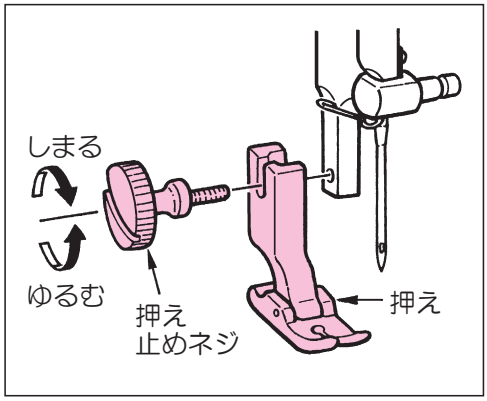
■布地、ミシン糸、針の組み合せ

	布　地	ミシン糸	ミシン針 (DBx1)
薄　地	ローン キュプラ ジョーゼット	化繊糸　＃80～＃90	9～11番
	スムース トリコット	化繊糸　＃80～＃90	
普通地	ブロード ギンガム	綿　糸　＃60～＃80 化繊糸　＃60～＃80	11～14番
	薄手ジャージー 化繊服地	化繊糸　＃50～＃60	
	フラノ ウール	化繊糸　＃50～＃60 絹　糸　＃50	
厚　地	デニム	化繊糸　＃20～＃50 綿　糸　＃20～＃50	14～18番
	帆布	化繊糸　＃30～＃50	
	ツィード	化繊糸　＃50 絹　糸　＃50	
	人工皮革	化繊糸　＃20～＃30	

⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

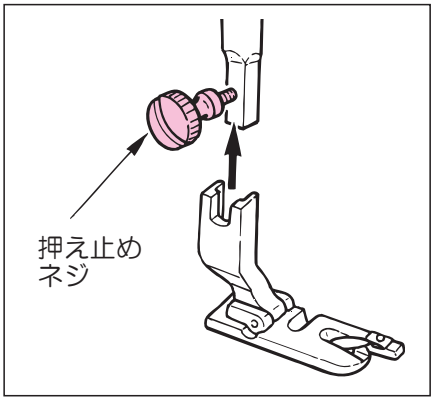
■三つ巻き縫い

1 押えをはずします



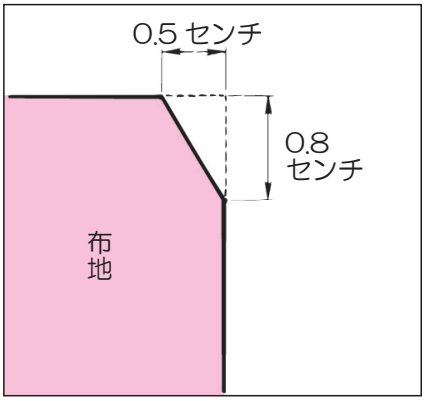
押え棒をあげて、押え止めネジをはずし、押えをはずします。

2 三つ巻き押えをとりつけます



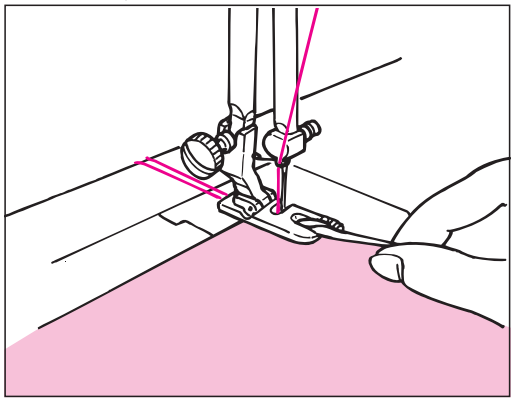
押え止めネジを押え棒にゆるくとりつけてから、押えをとりつけ、ネジでしっかり止めます。

3 布端を切ります



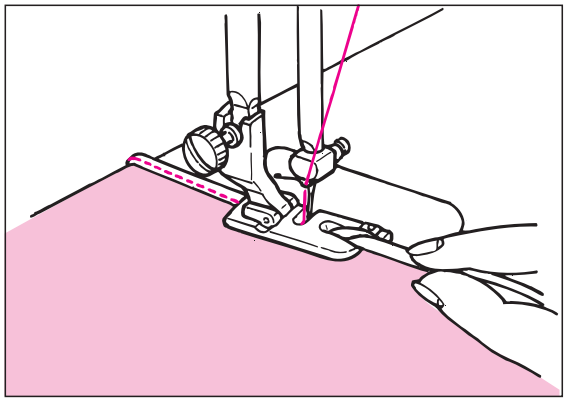
布地を巻き込みやすくするために、角を少し切ります。

4 切った布端を押えの渦のみぞへ入れます



押えの渦状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから、針を落として押えをさげます。

5 押えの渦の中に巻き込ませながら縫います

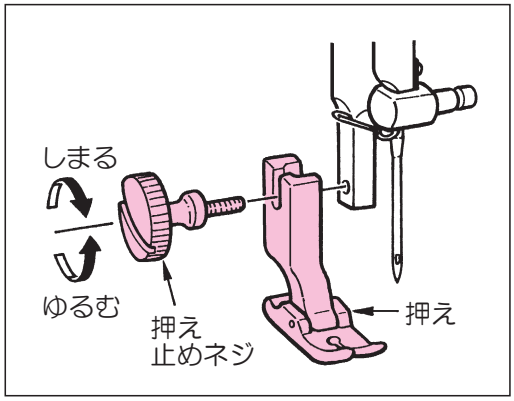


上下の糸端を左手で引き、はずみ車を３～４回まわし、正しく巻き込まれたら、右手の親指と人差し指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにして縫います。

⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

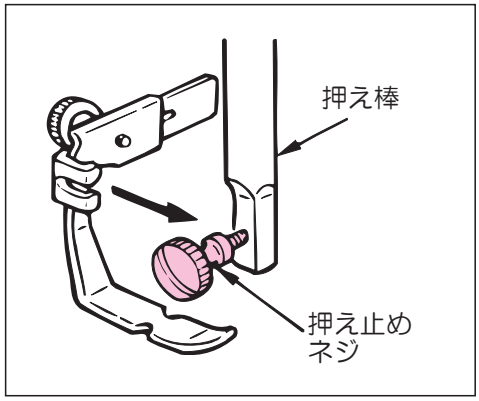
■ファスナーつけ

1 押えをはずします



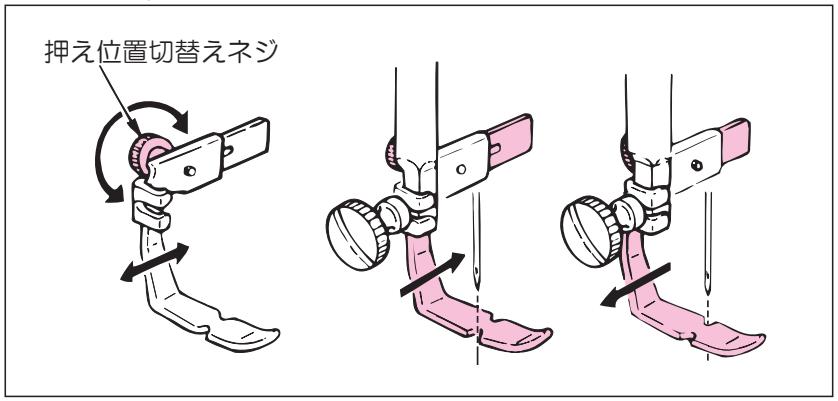
押え棒をあげて、押え止めネジを
はずし、押えをはずします。

2 ファスナー押えを とりつけます

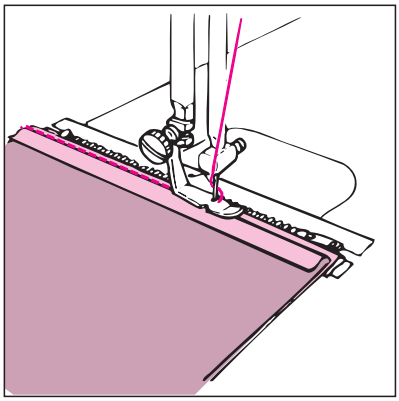


押え止めネジを押え棒にゆるく
とりつけてから、押えを
押え棒の向こう側からとりつけ、
ネジでしっかり止めます。

3 押え位置切替えネジを回して 押えを移動し、針落ち位置を替えます



4

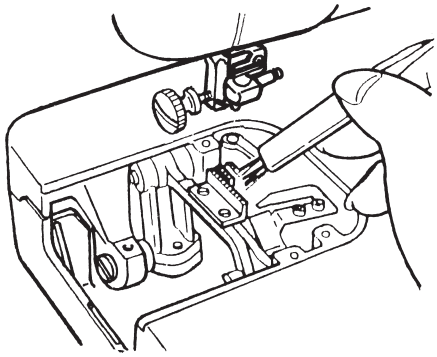


ファスナーの左側をぬうときは、押えを左に動かします。
右側をぬうときは、右に動かします。

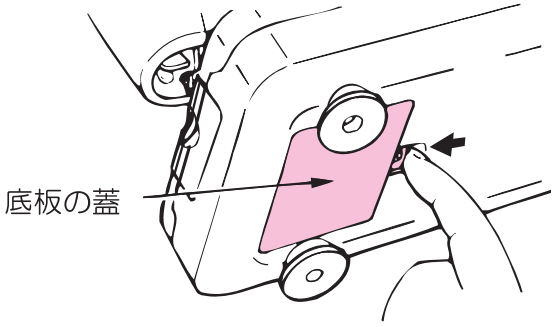
⚠注意 ミシンのお手入れをするときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

■お手入れと注油

●送り歯とカマの掃除



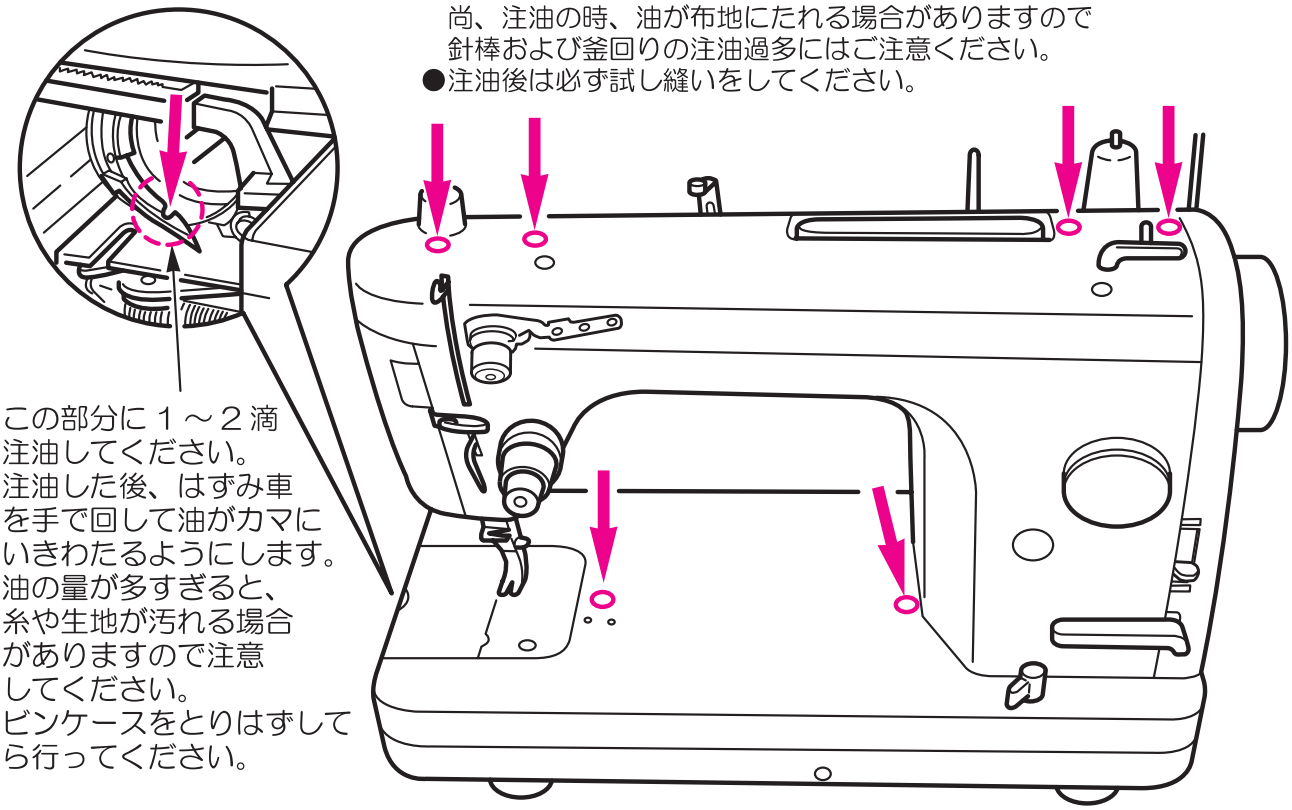
●針、押え、針板をとりはずして、送り歯とカマ周辺を掃除用ブラシできれいにします。



●掃除や、万一ボビンを落としたときなどに、底板の蓋を開けることができます。

●注油

●矢印の箇所に１～２滴注油してください。
●付属のミシン油（ニューデフレックスオイルNo.1）をご使用ください。
●毎日ご使用の場合は１日１回注油してください。
●開梱時、または長期間（２ヶ月位）ミシンをご使用にならなかった時は、通常より多め（５～７滴）に注油してください。
尚、注油の時、油が布地にたれる場合がありますので針棒および釜回りの注油過多にはご注意ください。
●注油後は必ず試し縫いをしてください。



●この部分に１～２滴注油してください。
●注油した後、はずみ車を手で回して油がカマにいきわたるようにします。
●油の量が多すぎると、糸や生地が汚れる場合がありますので注意してください。
ボビンケースをとりはずしてから行ってください。

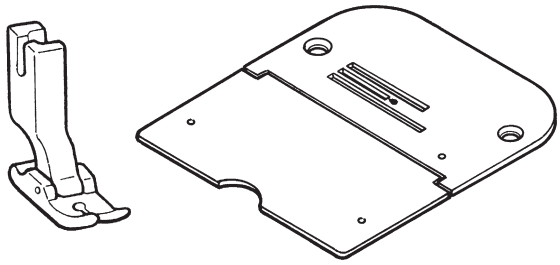
注意：
・目や身体に油が付着したときは、炎症、かぶれを防ぐため、直ちに洗浄してください。
・誤って飲み込んだ場合は、下痢、嘔吐を防ぐため、直ちに医師の診断を受けてください。
・子供の手の届かないところに置いてください。
・油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに従い適正に廃棄してください。

■別売品のご紹介

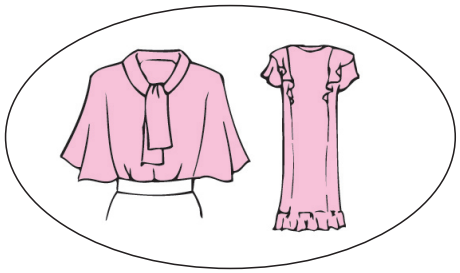
●専用テーブル

テーブル寸法
（幅 111 ×奥行 45 ×高さ 75）cm

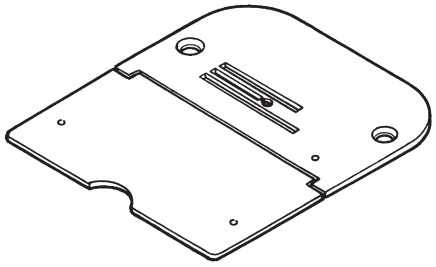
●薄物用押え・針板



ローン、ジョーゼット、トリコットなど
の薄地縫いに適します。

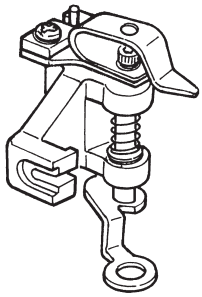


●厚物用針板



厚手の皮やデニム等、太い糸を使用する
場合に適します。

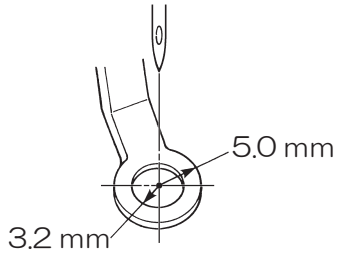
●キルト押え



※用途に応じた 2 種類の
キルト押えがあります。

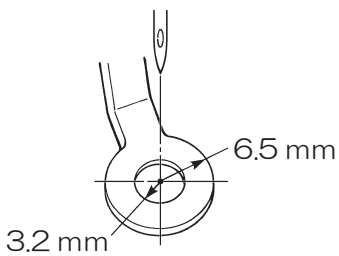
1/5 インチ＝ 5.0 mm タイプ

フリーモーションキルト
フリー刺しゅうに適します。



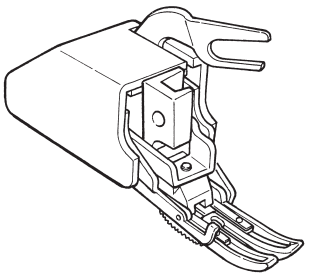
1/4 インチ＝ 6.5 mm タイプ

ステッチを一定間隔で入れる
ためのガイドとして適します。

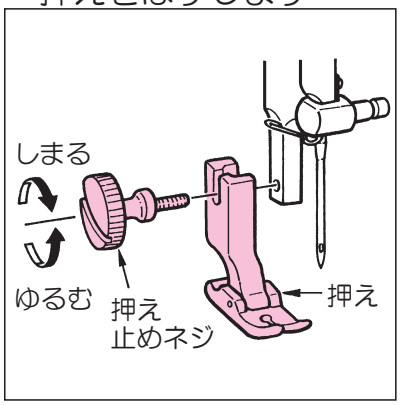


●上送り押え

ミシンで送りにくい素材（ベルベット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など）に使います。
滑らかな送りで布ズレを防ぎます。

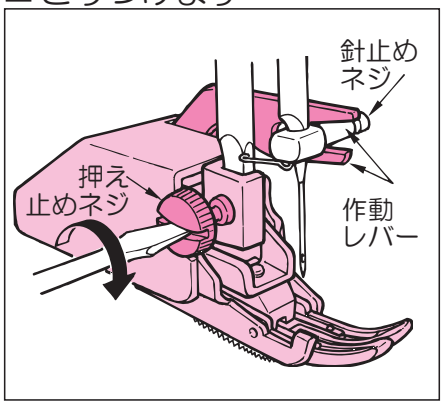


1 押えをはずします



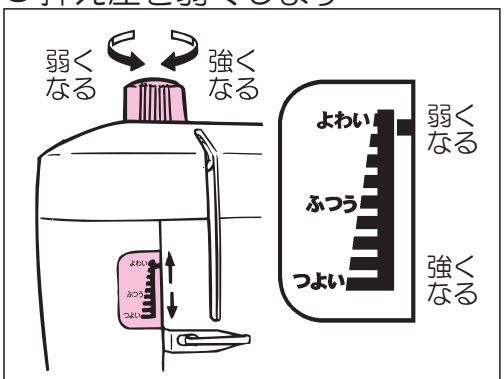
押え棒をあげて、
押え止めネジをはずし、
押えをはずします。

2 上送り押えをとりつけます



作動レバーの二また部分で
針止めをはさみ、とりつけ
部を押え棒にはめこんでから
押え止めネジをしっかり
しめます。

3 押え圧を弱くします

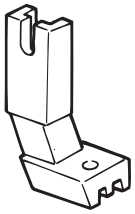


押え圧は■のところまで
弱くします。

■別売品のご紹介

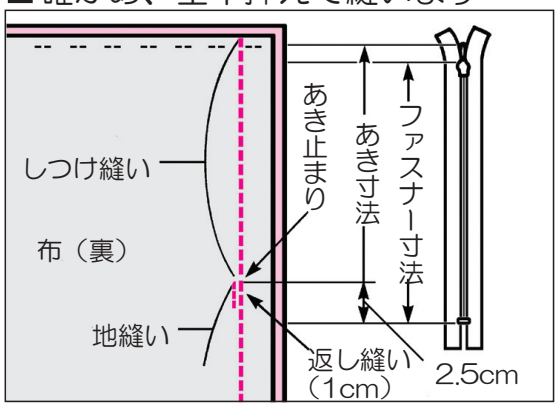
●コンシールファスナー押え

ファスナーの縫い目が布地の表に出ないので、つき合わせの状態であきの始末ができます。



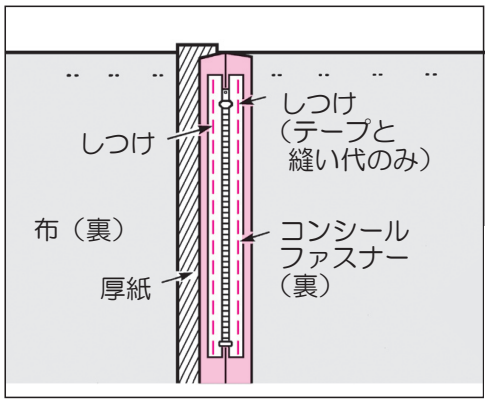
準備：ファスナーあき寸法を確かめ、基本押えで縫います

1



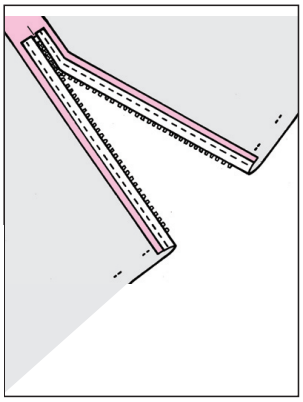
布地を中表に合わせ、布端よりあき止まりまでしつけ縫いをします。あき止まりから縫い目を（2.0）に変えて、1センチ返しぬいをし、縫います。縫い代をきちんとわります。

2



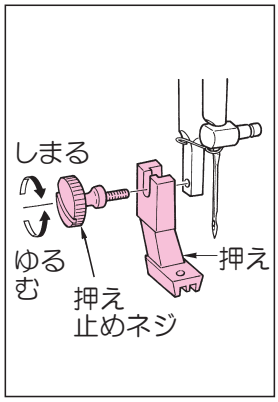
縫い目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、縫い代と表布の間に厚紙を入れ、縫い代とファスナーテープを両側とも手のしつけで縫い止めます。しつけが終わったら厚紙をとります。

3

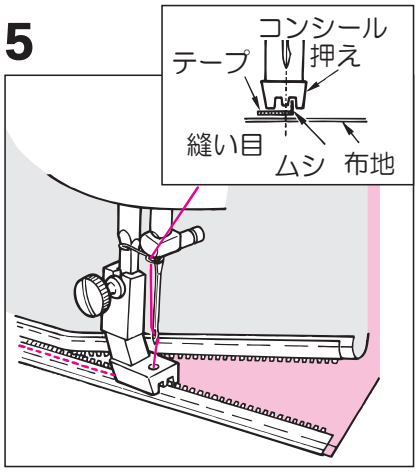


1図のあき止まりまで縫ったしつけ縫いをほどき、ファスナーを開きます。

4 コンシールファスナー押えをとりつけます

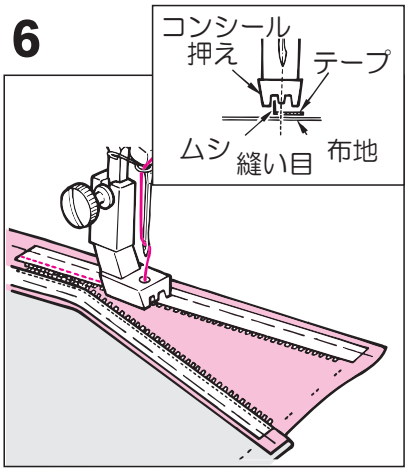


5



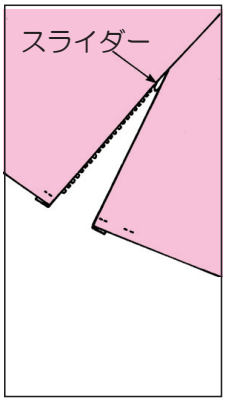
一方のファスナーのムシを、押えのみぞに合わせ、指でムシを立てるようにします。ムシのきわに、あき止まりからミシンをかけます。

6



もう一方の縫い代も同じ方法で縫い合わせます。（ファスナーテープのあき止まりから下の部分は、縫い代に縫いつけられずに残ります。）

7



スライダーを中より出し、上に引きあげます。

※別売品のお買い求めは販売店にご相談ください。
※その他、各種工業用アタッチメントも使用できます。
詳しくはミシンをお求めの販売店にご相談ください。

■故障かな･･･というときは

下記のことをお調べのうえ、それでも具合の悪い場合は、
お買い求め販売店にご相談ください。

症状	原因（理由）	処置方法	参照ページ
目とびがする	●針が曲っているか針先がまるいとき ●針を針棒に正しく取り付けていないとき	●針を交換します ●針を正しく取り付けます	13 13
上糸が切れる	●糸のかけ方を誤ったとき ●糸の張力が強いか弱すぎるとき ●針が曲っているか針先がまるいとき ●針と糸の太さが合わないとき	●糸のかけ方を正しくします ●張力を合わせます ●針を交換します ●針と糸の太さを合わせます	8,9 12 13 13
下糸が切れる	●糸の張力が強すぎるとき ●ボビンケースのバネが摩擦して溝が生じたとき ●針板の針穴にキズがついたとき	●張力を弱くします ●ボビンケースを交換します ●針板を交換します	12 - -
針が折れる	●針が曲っているか取り付け方を誤ったとき ●針板や押えに針が当たるとき	●針を交換し正しく取り付けます ●針や針板、押えを正しくつけます	13 -
縫い目にしわがよる	●布地に対して押えの圧力が強いとき ●上糸と下糸の張力が合わないとき ●針と糸の組合せの悪いとき ●針が布地に対して太すぎるとき	●押え調節ダイヤルを回し圧力を弱くします ●下糸の張力を合わせ、それに合わせて上糸張力を合わせます ●針と糸の組合せを適した組合せにします ●糸を布地に合わせて交換します	5 12 13 13
縫い目の調子が悪い	●上糸と下糸の張力が合わないとき	●下糸の張力を合わせ、それに合わせて上糸張力を合わせます	12
回転が重い、または、音が高い	●送り歯にゴミがたまっているとき ●長時間使用して油がなくなったとき ●ミシン油でない油を使用したとき ●カマに糸クズがたまっているとき	●ミシンの手入れをします ●ミシンの手入れをします ●ミシン油（ニューデフレックスオイルNo.1）を使います ●ミシンの掃除をします	16 16 16 16
はずみ車が重く、回らない	●カマに糸がからんで食い込んでいるとき	●カマに注油してから、はずみ車を前後に強く数回まわし、からんだ糸を取り除きます	-
布を送らない	●縫い目の長さが０になっているとき ●ドロップフィードつまみが「送らない」になっているとき ●押えの圧力が弱いとき	●適正な縫い目の長さをセットします ●「送る」にセットします ●押え調節ダイヤルを回し圧力を強くします	4 5 5
自動糸切りをした後、再び縫う時針穴から糸が抜ける	●サブテンションが強すぎるとき ●糸がどこかにひっかかっているとき	●サブテンションを標準位置に戻します ●糸がひっかかっていないか確認します	8 8,9
針が上下しない	●ボビン押えが“下糸巻き”状態になっている	●ボビン押えを手前に戻します	7

■アフターサービスと保証

●このミシンには保証書がついています。
●保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、
記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
●保証期間は、お買い上げの日から１年間です。ただし、メイン基板については２年間です。
●保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。
（保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。）
●保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低８年間保有しています。

JUKI

JUKI 株式会社
〒 206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

アフターサービスについて、ご相談、ご要望が
ございましたら、お買い上げのお店、
または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル
0120-677-601
年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く
平日（月～金）9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:45

Copyright © 2010-2011 JUKI CORPORATION
本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

購入店名　後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼されるときお役に立ちます。

電話（　　－　　－　　）
購入年月日：　　年　　月　　日

40096728-1　　001111